

わくわく ばんどう まちづくりディスカッション2014
坂東版市民討議会

市民のアイデアで心豊かな坂東市へ



▲坂東市ならではの高齢者支援について討議を行いました

8月31日、岩井公民館で、一般社団法人坂東青年会議所と市が協働で組織する市民討議会実行委員会主催による市民討議会が開催されました。

市民討議会は、市民参加のまちづくりを進めようと今年で5回目の開催で、無作為に抽出された1500人の市民のなかから22人の参加希望がありました。

当日は16人が出席し「光輝（こうき）幸齢者（こうれいしゃ）になれるまちくおもい

やりのある豊かな坂東市を指して」をテーマに4つのグループに分かれ、高齢者支援について討議を行い結果を発表しました。

後日、市民討議会で話し合われた結果を報告書としてまとめ、市に提言します。

■お問合せ

市民協働課 岩井臨時庁舎
内線3252

ばんどう まちづくり

坂東市長 吉原英一



二世五姓田芳柳展 「芸術の秋」に絵画鑑賞を お楽しみください

秋もいよいよ深まってまいりました。スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋といわれるこの季節、当市でも音楽祭や将門まつり、将門ハーフマラソンなど、秋恒例のイベントを開催いたします。ご家族、お友達お誘い合わせのうえ、お楽しみください。さて、昨年は平将門公生誕1111年を記念するイベントを開催し、坂東市を内外にアピールいたしました。本年は、我が郷土が生んだ偉人・二世五姓田芳柳画伯の生誕150周年に当たります。そこで当市では、

さしま郷土館ミューズを会場に「二世五姓田芳柳とその知られざる画業」と題した特別展を10月25日から来年2月22日まで、前期と後期の2期に分けて開催いたします。

この特別展は、日本近代絵画史に足跡を残した沓掛出身の洋画家・二世五姓田芳柳画伯の画業と生涯を、市内外に残された多彩な作品を通して紹介する回顧展です。

芳柳画伯は本名を倉持子之吉といい、大工棟梁の家に生まれました。幼少期から非凡な才能を発揮した子之吉少年は明治11年、数え年15歳で上京し、当時まだ珍しかった洋画工房に通って絵の修業を始めました。程なく、その画才と力量は周囲を圧倒し、師匠である初代五姓田芳柳の養嗣子に迎えられ、弱冠24歳で画号を継承し、明治期の中央洋画壇で活躍しました。

残念なことに、芳柳画伯が描いた大作は関東大震災や戦災で大半が失われてしまいましたが、明治神宮外苑聖徳記念絵画館の「枢密院憲法会議」や御物「明治天皇紀附图」、日本赤十字社所蔵の「関東大震災臨時救護所の模様」など近代日本の歴史的な事件を描いた作品のほか、江戸幕府の老中首座「阿部正弘」や慶応義塾を創設した「福澤諭吉」など歴史に名を残した人物の肖像画が多数残っています。

今回の特別展では、息遣いまで聞こえそうな迫真描写の肖像画、日本歴史の名場面や逸話を題材にした歴史画のほか、風景画、風俗画、仏画、パノラマ画など約200点の作品資料を展示いたします。

幕末に当地で生まれ、絵を描くことに巧みな少年が、絵筆で身を立ようと一人故郷を離れて上京し、厳しい鍛練と人一倍の努力を積み、明治・大正・昭和という激動の時代に「絵画一筋」に生きた二世五姓田芳柳と倉持子之吉の生涯を、この機会にぜひご覧になってください。